

## 厚岸町のコウモリ類

2002年に、厚岸町から「厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金」を受けて、コウモリ調査を行った。厚岸町で本格的に行うのは初めてであり、水鳥観察館職員を始め厚岸町民に捕獲に際し多大なるお世話になった。感謝したい。

コウモリ調査は、カスミ網を張ってしまえばあとは「ジツ」と掛かるのを待つだけである。そのため、網の張り方が肝心で、予備調査を愚かにするとゼロと言う場合もある。森林でも水面でもコウモリは超音波を使い、ただ網を張っても網の前でUターンするのでまず掛からないと思って良い。日中、及び網を掛けない時でも、係りそうは所を探しにひたすら車で回った。カーブや沢沿いで天蓋があって、5間、3間の網が張れる所を選び、また、水面では、障害物がある所を選び、そこに網を張った。

カスミ網は、14日間、15地点で行った。その結果、14地点で、9種140頭捕獲された(1頭は手捕り)。水面では、ドーベントンコウモリ、森林では、ウサギコウモリが優先種であった。両方とも希少種であり、普通種のももジロコウモリは、尾幌オッポロー号橋で一頭のみが捕獲されたのみであった。昨年も上尾幌の尾幌川で1頭のみが捕獲されたのみであったので、何でいないのか、あるいはねぐらを外した所で調査したのか、これからの調査を待ちたい。

厚岸町では、北がカラマツ主体の国有林、南が植栽を伴った天然林の道有林、西が日本製紙の社有林で過去に伐採がある天然林、それと太田地区の防風林、4地区で比較してみた。結果は、それぞれに個体数は多かったことであり、比較データとしてはまとまらなかったことである。特に、日本製紙の社有林では、一日で8種27頭が捕れた。また、カラマツ林と天然林の比較でも、良い結果が出なかった(両方とも非常に良く捕れた)ので、来年もう一度捕獲して結果を出すつもりである。

現段階で、厚岸町内では、厚岸町の新種、ドーベントンコウモリ、キタクビワコウモリ、テングコウモリを含め、捕獲9種と、捕獲はできなかったが、ヤマコウモリが国有林、道有林、日本製紙の社有林で確認され、合わせて10種が確認された。なお、捕獲種で、ホオヒゲ sp.とあるのは、生きている段階ではヒメホオヒゲコウモリかホオヒゲコウモリかわからなくホオヒゲ sp.とした(10月に富山で日本哺乳動物学会があり、生きたまま放獣する時はホオヒゲ sp.とする指摘があった)。